

ダンス必修化に伴う教員の不安構造の分析

Analyses of the Teacher's Anxiety Structure in Accordance with the Introduction of the Compulsory Dance Education

山口 莉奈¹, 正田 悠^{1,2}, 鈴木 紀子³, 阪田 真己子¹

Rina Yamaguchi, Haruka Shoda, Noriko Suzuki, and Mamiko Sakata

¹同志社大学大学院文化情報学研究科, ²日本学術振興会, ³帝塚山大学経営学部
Graduate School of Culture and Information Science, JSPS, Tezukayama University
dip0010@mail4.doshisha.ac.jp

Abstract

The purpose of the present study is to understand the teacher's anxiety structure, particularly in accordance with the introduction of "dance" as the compulsory education. In detail, we focused on "teaching anxiety," which we defined as teachers' concerns in sports fields' curriculums. We conducted a questionnaire study for each of the teachers ($N = 102$) who participated in a training seminar by Nippon Street Dance Studio Association. Our text-mining analysis showed that the teaching anxiety was constructed with five categories: the anxieties for lack of knowledge (a), lack of teaching experience (b), curriculums (c), students (d), and teaching methods (e). The subsequent multiple correspondence analysis showed that such the anxiety differed as a function of the teacher's properties such as type of school, age, sex, and previous dancing experiences. In future study we would like to construct a standardized questionnaire to measure teachers' anxieties in Japan, aiming at solving the teaching anxieties discovered in the present study.

Keywords — anxiety structure, compulsory education, teaching anxiety

1. はじめに

平成 20 年 3 月に告示された中学校学習指導要領の改訂に伴い、中学校保健体育においては、従前では選択であった「ダンス」が必修となった。中村 (2009) は、ダンスの必修化に伴い、多くの教員が指導力不足への不安を抱くであろうと述べている。指導要領改訂に伴う担当教員の不安に関しては、浜島・武藤 (1997) が、高校家庭科が男女共習となった結果、男女の能力や技術の差、指導方法に不安を抱いた教員が多いことを報告している。また、西松 (2005) は、教員が抱える不安には授業実践に関する不安と児童・生徒関係に対する不安の 2 種類があり、前者の不安は講師経験の有無に起因すること、また、後者の不安は中学校教員が強く抱えていることを報告している。

これらの研究は、学習指導要領の改訂による必修化に伴い、指導者に関わる問題、カリキュラム

に関わる問題、指導法に関わる問題など様々な問題が生じたことを示している。これらの問題を解決するために、教員が抱えている授業実践に関わる課題や困難点を明らかにすることが重要であると考えられる。そこで、本研究では、松宮 (2013) の指導不安の定義に依拠し、ダンス指導において生じる課題や困難点を「ダンス指導不安」として定義し、「ダンス指導不安」に着目する。ダンスの必修化に伴い、教員が抱えているダンス指導不安がいかなる構造をもつのかを明らかにすることを本研究の目的とする。さらに、そのダンス指導不安が、校種、性別、年代、ダンス経験の有無やダンス指導経験の有無によって、どのように異なるかを明らかにする。

2. 方法

2.1 調査概要

日本ストリートダンススタジオ協会主催の学校教員・教職課程履修中の大学生向けリズムダンス研修会 (以下:「NSSA 主催リズムダンス研修会」) の参加者に対し、研修会終了後に質問紙調査を依頼した。調査内容は (1)「現代的なリズムダンス」指導に対する不安の有無、(2) (1) で不安ありと回答した人を対象にどのような部分に不安を抱いているのかを自由記述にて回答、(3)対象者の属性:校種、性別、年代、ダンス経験の有無、ダンス指導経験の有無の三部構成とした。

2.2 調査方法

調査は 2014 年 5 月から 6 月にかけて、NSSA 主催リズムダンス研修会参加者を対象に実施した。調査対象者には、調査実施前に個人情報取り扱いに関する同意条項を説明し、調査協力に対する同意を得ることを必須とした。個人情報取り扱いに関する同意条項については、主にこの調査によって得られたデータは本研究以外の目的では使用しないことや、アンケートの保護・管理を徹底することについて説

明した。以上の条項に同意を得られた場合には、質問紙に回答してもらい、同意を得られない場合や回答したくない場合は白紙で提出してもらった。回答には制限時間などを設けず、回答を終えた人から提出してもらうこととした。

回収数は102名(回収率86.3%)で、有効回答数は88名であった。88名のうち男性は24名、女性は64名で、平均年齢は30.59($SD=8.78$)歳であった。(1)「現代的なリズムダンス」指導に対する不安の有無に回答していないものは無効回答とし分析から除外した。

2.3 分析方法

「現代的なリズムダンス」指導に対する不安があると回答した78名が抱えている不安内容(自由記述)を分析対象とした。回収したデータから、表1に沿って、データセットを作成した。

表1: 調査対象者の属性とコーディング

質問内容	回答
学校	小学校:1 / 中学校:2 / 高等学校:3 / 大学:4 / 中高一貫:5
性別	男性:1 / 女性:2
年代	20代:1 / 30代:2 / 40代:3 / 50代:4
ダンス経験	あり:1 / なし:0
ダンス指導経験	あり:1 / なし:0

分析にはテキストマイニングソフトであるKHCoder(樋口, 2014)を用いた。本研究では、相対的に強く結びついている単語同士を自動的に検出してグループ分けを行い、ネットワーク図を示す「共起ネットワーク(サブグラフ検出・媒介)」を使用して分析を行った。また、抽出された5つの不安要素と校種、性別、年代、ダンス経験の有無、ダンス指導経験の有無との対応関係を探るために多重コレスポネンス分析を行った。多重コレスポネンス分析はRのmcaパッケージを用いて行った。

3. 結果と考察

図1に、共起ネットワークを示す。「ない」、「自分」、「わかる」という語からなるグループ、「苦手」、「不安」、「教える」という語からなるグループ、「評価」、「イメージ」、「生徒」という語からなるグループ、「ニーズ」、「合う」、「レベル」という語からなるグループ、「指導」、「経験」、「見本」という語からなるグループの5つに回答者の不安が分類された。これらのグループを本研究ではそれぞれ「知識不足に対する不安」、「指導経験不足に対

する不安」、「授業構成に対する不安」、「生徒に対する不安」、「指導法に対する不安」と名付けた。「ダンス」、「違い」という語からなるグループと「リズム」、「方法」、「体」という語からなるグループは回答数が少なかったため、本研究では回答者の不安として分類しなかった。抽出された不安の具体的な内容を表2に示す。

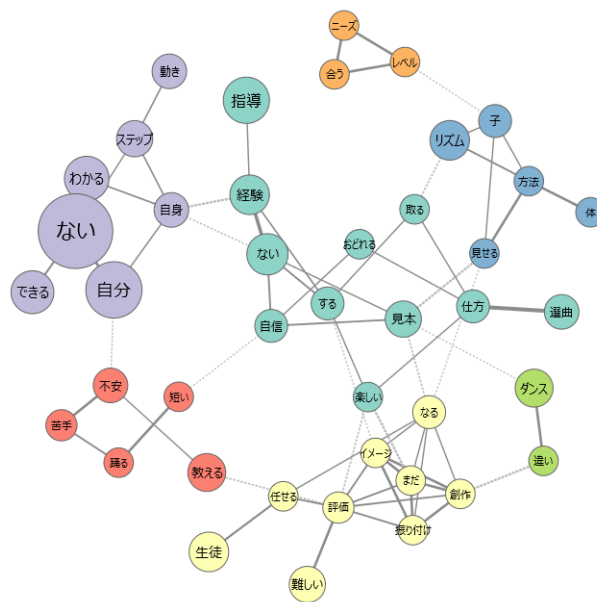


図1: 不安内容に対する共起ネットワーク図

表2: 各不安要素に関する回答例

【下線は共起ネットワーク内の抽出語】

不安要素	回答例
知識不足に対する不安	<u>ステップの名前がわからない</u> 格好良く見える動きがわからない <u>ステップの組み合わせ方がわからない</u>
指導経験不足に対する不安	自分自身に教えるスキルがあるかどうか 自分自身が見本として踊ることができるかどうか
授業構成に対する不安	<u>評価の基準がわからない</u> 経験のある生徒に授業を任せようかもしれない
生徒に対する不安	生徒のレベルやニーズにあった選曲や振り付けであるかどうか
指導法に対する不安	口だけの指導にならないか <u>経験者と初心者を同時に指導することができるかどうか</u>

次に、校種、性別、年代、ダンス経験の有無、ダンス指導経験の有無のそれぞれのカテゴリと共起ネットワークから得られた5つの不安との対応関係について多重コレスポネンス分析を行った結果を図2に示す。多重コレスポネンス分析は、複数のカテゴリカル変数に対して、対応分析を行うものである(藤井, 2010)。

まず、図1で得た5つのカテゴリが図2上でどのように布置したのかについて述べる。図2の第1軸(横軸)上では、生徒に対する不安が負の方向に、その他の不安が正の方向に寄与した。前者は生徒を相手とした対人的不安であり、後者は教

員の個人的な不安かつ授業実践に関する不安である。また、第2軸(縦軸)上では、知識不足・経験不足に対する不安が負の方向に、授業構成・生徒・指導法に対する不安が正の方向に寄与した。前者は教師自身の能力に関する不安である一方、後者は授業実践に関する不安であると考えられる。したがって、第1軸は「不安の対象が教師自身か生徒か」を区別する軸であり、第2軸は「不安の対象が授業か自分自身か」を区別する軸であるといえよう。

次に、本研究での調査対象者の属性(表1)の各項目について、多重コレスポネンス分析の結果を述べる。まず、校種について見てみると、中学校と小学校・高等学校が第2軸上で分かれる形となった。上述のように第2軸は「不安の対象が授業か自分自身か」を分ける軸であるため、中学校教員は授業実践に対する不安を抱いているのに対し、小学校や高等学校の教員は自分自身のダンスに対する知識や指導不安に対する不安を抱いていることが示された。次に性別に着目すると、第1軸上において負方向に女性、正方向に男性と分かれる形になった。上述のように第1軸は「不安の対象が教師自身か生徒か」を分ける軸であるため、女性は生徒に対する不安を持っているのに対し、男性教員は自分自身の知識や経験不足に対して不安を抱いていることが示された。次に年代について見てみると、20代・30代は第2軸上で分かかれ、40代は第1軸の負方向に位置する形となった。第1軸は「対象の不安が教師自身か生徒か」、第2軸は「不安の対象が授業か自分自身か」を区別するための軸であるため、20代の教員は自分自身の知識や指導不安に、30代の教員は授業実践に、40代以上の教員は生徒に対する不安を抱いているということがわかった。さらに、ダンス経験の有無、ダンス指導経験の有無にも着目すると、共に第1軸上で経験ありが負方向、経験なしが正方向に分かれる形となった。すなわちダンス経験あり、ダンス指導経験ありの教員は生徒に対する不安を抱いているのに対し、ダンス経験なし、ダンス指導経験なしの教員は自分自身の知識や経験不足に対して不安を抱いていることが示された。

以上の分析より特徴的な結果をまとめると、ダンス経験なしと回答した人の周辺に5つの不安要素のうち4つ(「知識不足に対する不安」、「指導経験不足に対する不安」、「授業構成に対する不安」、「指導法に対する不安」)が集中してプロットされている一方で、ダンス経験ありと回答した人の周

辺にはこれらの不安が存在していないことがわかる。また、ダンス指導経験の有無に着目するとダンス指導経験ありと回答した人は「生徒に対する不安」を抱いているという結果が示された。校種について見てみると、中学校だけが小学校、高等学校の対極に位置し、「授業構成に対する不安」と近いことがわかった。よって西松(2005)で述べられている教員が抱える不安には授業実践不安と児童・生徒関係に対する不安の2種類に分けられるという結果と同様の結果が示されたと考えられる。

特に小学校や高等学校の教員よりも中学校教員が授業構成に対する不安を抱いているという結果は、学習指導要領の改訂に伴い、中学校のみダンスが必修化されたことに起因していると考えられる。必修化されて間もないこともあり、授業の模範となるものがない中での授業実施は教員の不安を助長させるのではないだろうか。

4. まとめ

本研究では、NSSA主催リズムダンス研修会に参加した学校教員を対象に、ダンス指導に関する不安の構造を調べたところ、教員の不安は「知識不足に対する不安」、「指導経験不足に対する不安」、「授業構成に対する不安」、「生徒に対する不安」、「指導法に対する不安」の5つから構成されることを明らかにした。また、校種、性別、年代、ダンス経験の有無、ダンス指導経験の有無のそれぞれのカテゴリにおいて不安が異なることも明らかにした。これはダンス指導の不安が、指導者の属性によって異なることを示している。そのため、それぞれの属性に応じた指導カリキュラムの確立の必要性が示唆された。

今後は、本研究で明らかにした不安の構造に基づいて、教員の不安を測定するための標準化された質問紙を作成し、いかなる方法を用いればそれぞれの不安が解消されるのかを探究する。

参考文献

- [1] 中村 恭子, (2009) “中学校ダンス必修化の課題-中学校教員を対象とした調査にもとづいて-”, 順天堂スポーツ健康科学研究, 第1巻, 第1号, pp. 27-39.
- [2] 浜島 京子, 武藤 八恵子, (1997) “新指導要領実施後における高校家庭科教員の意識の変化”, 日本家庭科教育学会誌, 第40巻, 第3

号.

- [3] 西松 秀樹, (2005) “教師効力感と不安に関する研究”, 滋賀大学教育学部紀要 教育科学, No. 55, pp. 31-38.
- [4] 松宮 新吾, (2013) “小学校外国語活動担当教員の授業指導不安にかかわる研究 (授業指導不安モデルの探求と検証)”, 関西外国語大学 研究論集, 第 97 号, pp. 321-338.
- [5] 樋口 耕一, (2014) “社会調査のための軽量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して-”, ナカニシヤ出版.
- [6] 藤井 良宣, (2010) “カテゴリカルデータ解析”, 共立出版.

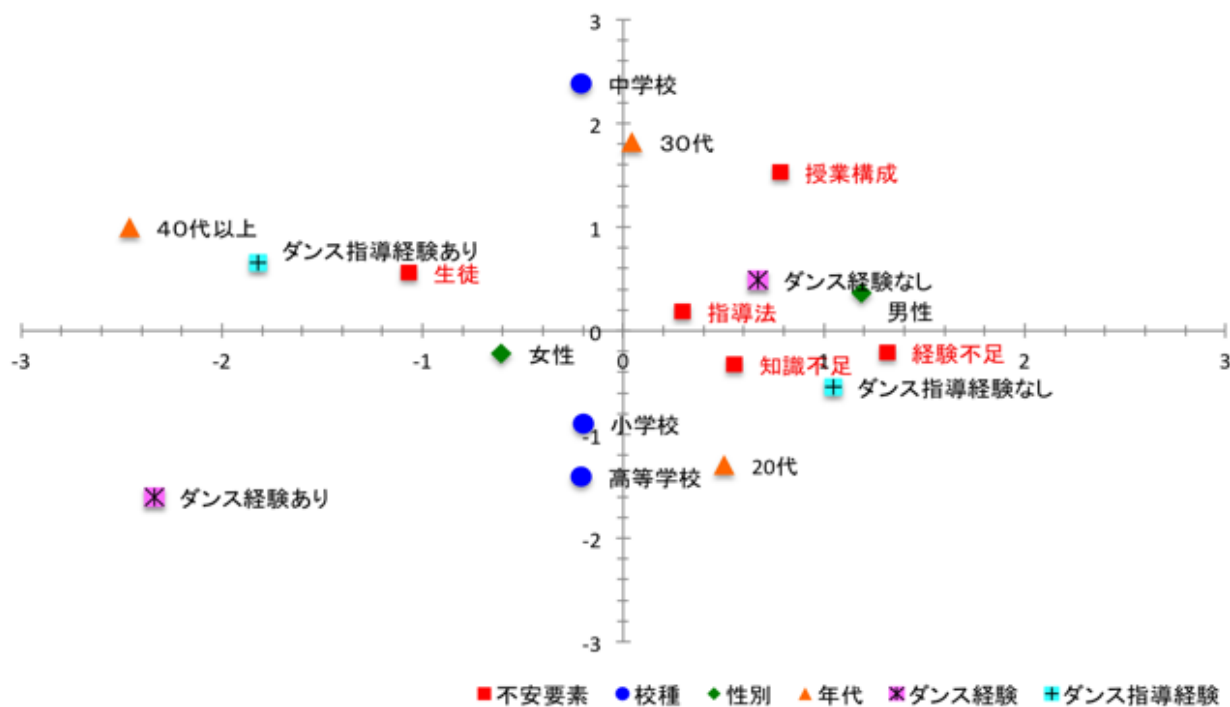


図 2 : 多重コレスポネンデンス分析による教員の不安と属性の対応関係